

東北6県で防災設備・エンジンを販売・メンテナンス

宮城ヤンマー株式会社（石巻市）

ヤンマー特約店として東北6県をカバーする「宮城ヤンマー株式会社」（宮城県石巻市松並1-14-5、☎0225-93-2121、浅野亨社長）を取材した。企業理念として「社長の品質方針」を掲げ、毎朝、皆で唱和を行っている。「我が社は、顧客ニーズに合った製品とサービスを確実に、安定的に、効率よく供給し、品質を保証し、顧客の信頼と満足とを獲得し続ける会社を目指す」と謳っている。

同社は船舶用エンジンや漁業機器、中小形船舶の販売を行っている。また、陸用の非常用発電設備、常用発電設備、コージェネシステム、太陽光発電設備、海水・淡水清浄設備、排水機場向け排水ポンプ駆動用エンジンの販売、設計、施工、メンテナンスを行っている。同社の取り組みを紹介する。

創業の経緯

宮城ヤンマーの前身は昭和3年（1928）9月3日設立の「保原屋（ほばらや）船具店」。浅野亨策（こうさく）氏が創業し、漁船で使用する電球などの漁業関連機器を販売していた。出身地の福島県伊達郡保原町（現福島県伊達市）の名を店名に採用した。創業当時の所在地は石巻市本町18-8。昭和22年（1947）3月22日、事業拡大を図るため、ヤンマー特約店となった。昭和25年（1950）3月6日、個人商店を株式会社へ法人化し、「株式会社保原屋船具店」を石巻市中央1-14-16に設立した。

その後、ヤンマー製の船用エンジンの販売・メンテナンスを中心に事業を展開してきたが、昭和50年代（1970年代後半）からは陸用エンジンも取り扱うようになった。特に土地改良区におけるポンプ場向けのポンプ駆動用エンジンの納入や、納入後の定期メンテナンス事業の受注が急増した。

本社・工場の設立

昭和51年（1976）6月10日、社名を「宮城ヤンマー株式会社」に変更し、業務拡大に伴い、石巻市松並1-14-5に建設した本社ビルへ移転した。同年8月1日、東北6県を営業エリアとする「仙台営業所」を仙台市卸町1丁目に開設した。平成4年（1992）2月21日、仙台営業所を「仙台支店」へ格上げし、仙台市青葉区立町21-5-105に移転した。

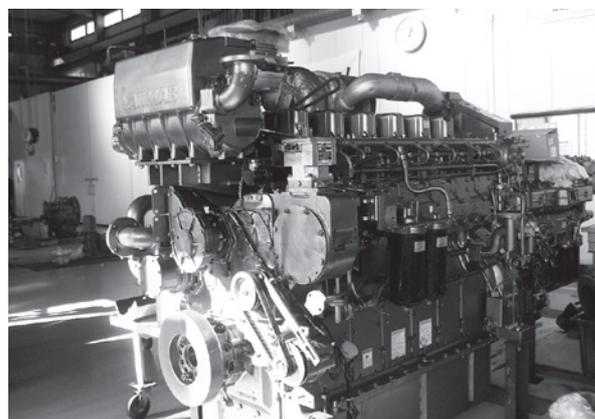
平成9年（1997）1月1日、負荷試験装置のほか、



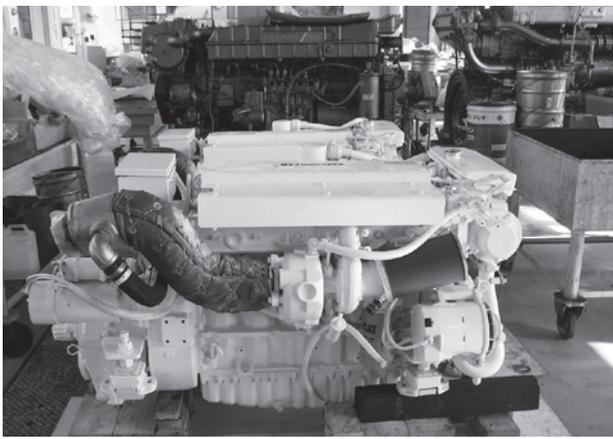
宮城ヤンマー株式会社本社・工場

エンジンの分解ライン、洗浄ライン、組立ラインまで一貫して備えた「整備工場」を本社ビルに併設した。現在、「本社・工場」と称している。営業販売部門と設計施工・メンテナンス部門の連携強化を図ることにより、顧客密着型のサービス体制を整えた。さらに、営業エリア拡大を見据え、平成10年（1998）9月28日、仙台市太白区茂庭字東194-1に完成した支店ビルに仙台支店を移転し、平成16年（2004）3月15日、青森・岩手・秋田3県を営業エリアとする「盛岡営業所」を岩手県盛岡市三本柳7-29-13に開設した。

平成21年（2009）8月21日、石巻市不動町2-2-25にエンジン修理・整備の拠点工場である「不動町工場」を建設した。平成22年（2010）5月21日、さらなる品質管理を図るため、「宮城ヤンマー品質管理委員会（MYQ）」を設置して自社独自の品質管理を推進している。



整備中の漁船用エンジン（ヤンマー株製）



整備中の陸用エンジン（キャタピラー製）

防災設備など5部門で事業展開

現在、主に5部門で事業を積極的に展開している。漁船や運搬船、客船向け船舶用エンジン、FRP（ガラス繊維強化プラスチック）漁船を取り扱う「船用部門」。水産加工場向け搬送用ベルトやライトなどの省力機械・搬送装置を取り扱う「プラント機器部門」。また、庁舎や電力会社施設向けディーゼル・ガスタービン・ガスエンジン式発電設備、コージェネシステムを取り扱う「防災設備部門」。船舶用エンジン、非常用発電設備の点検整備・定期検査を行う「メンテナンス部門」。さらに、漁協や水産加工関連会社向け海水・淡水膜ろ過装置、給排気・消音装置、環境関連機器の設計施工・点検整備を行う「エコロジープラント部門」である。

販売事業の拡大に伴い、宮城ヤンマーでは多様なエンジンを取り扱い、納入実績も増加している。同社はメーカー毎に特徴あるエンジンのメンテナンスに的確に対応するため、各メーカーの指定工場の認定を受けている。平成6年（1994）4月1日にMTU指定サービス工場となったのを皮切りとして、平成9年（1997）1月8日に国土交通省公認の船用内燃機関サービスステーション、平成10年（1998）7月1日にMAN指定サービス工場、平成12年（2000）6月13日にSKK（旧四国建機）指定サービス工場、平成16年（2004）8月6日にキャタピラーパワーシステムズインク日本支社販売代理店、平成21年（2009）4月1日に三井造船マシナリー・サービス株式会社指定サービス工場となっている。

今後の注力部門

宮城ヤンマーは向こう2年間、復興需要の受注獲得に注力していく。仙台支店は販売・営業を、本社は設計・施工・試運転・メンテナンスを担い、従業員88人が一丸となって非常用・常用・常用防災兼用発電設備、太陽光発電設備、船舶用やポンプ駆動用エンジンを積極的に売り込む。今年度の売上高は平年の1.5倍相当の55億円程度を目指している。

被災地では電力供給安定化に向けて自家発電設備



左から川村浩史仙台支店長と浅野辰之副社長

の導入や、船舶の艀装の新規需要の増加が続いている。特に公立病院・個人病院・学校・銀行向け非常用ディーゼル発電設備、常用ガスエンジン発電設備、常用防災兼用発電設備、可搬形ディーゼル発電設備の販売・メンテナンスが増えている。非常用発電設備の保守点検・整備や、既設の自家発電設備の長時間化に向けて燃料貯槽庫の増設工事も増えている。また、北東北沿岸部を中心に大津波で流失したサンマ船・カツオ船の艀装やメンテナンスの需要増加も引き続き見込まれている。

特需の市場ニーズをキャッチして素早く対応できる市場密着型組織とするため、宮城ヤンマーは今年4月21日付で「組織改正」を行った。事業本部・営業本部・管理本部の3本部制を採用した。事業本部はメンテナンス部マリン課・プラント課、プラント部プラント課、システム部システム課からなる。営業本部はマリン営業部マリン課・メンテナンス課、プラント営業部プラント課・プラント機器課、仙台支店プラント課・メンテナンス課、仙台支店が統括する盛岡営業所で構成される。管理本部は総務部総務課、管理部管理課からなっている。

仙台支店（☎022-281-4811）・盛岡営業所（☎019-632-7530）の営業力と、本社（☎0225-93-2121）の設計施工力との連携強化を図り、引き続き、宮城ヤンマーでは顧客ニーズに的確に対応していく。



仙台支店全景とフロアー内